

記者発表資料（資料配布）				
発表日	担当課名	電話	発表者名（担当者）	その他配布先
9月17日（火）	病院局経営課	078-362-3301 内線3464	経営課長 市川 裕造 （経営班長 田路 修康）	阪神南、東播磨、中播磨、西播磨、丹波、淡路各県民局（県民センター）

令和5年度 兵庫県病院事業の経営状況について

1 経営状況（13病院）

令和5年度は、はりま姫路総合医療センターのフルオープン（4月）等により医業収益は増加したものの、これまで県の要請に応じ多くの病床を確保してきた（県全体の14.7%となる延べ90,445人を受け入れ）新型コロナウイルス感染症の病床確保料（空床補償）が、5類移行に伴って大幅に減少し、また、通常診療再開後は、患者の受療行動の変化等によりコロナ以前の水準まで病床利用率が回復しないなど、想定した収益が確保できなかった。

さらに、近年の物価高騰や賃金上昇などで費用は増加傾向が続いているものの、診療報酬制度の下ではその費用の増加を料金に転嫁できないことなどもあり、病院事業収支は大幅に悪化した。

これらの結果、91億円の経常損失、94億円の純損失となった。

【決算状況（13病院）】

（単位：百万円）

区分	令和4年度	令和5年度	前年度比較		
			増減	割合（%）	
経常収益	入院収益	84,598	92,746	8,148	109.6
	外来収益	38,198	39,809	1,611	104.2
	その他医業収益	2,567	2,737	170	106.6
	医業収益計	125,363	135,292	9,929	107.9
	一般会計繰入金	16,392	16,264	△128	99.2
	その他収益	19,377	11,546	△7,831	59.6
	うち病床確保料	9,692	1,140	△8,552	11.8
合計①	161,132	163,101	1,969	101.2	
経常費用	給与費	79,265	81,211	1,946	102.5
	材料費	44,012	47,885	3,873	108.8
	経費	27,130	27,641	511	101.9
	その他医業費用	11,404	13,081	1,677	114.7
	医業費用計	161,811	169,818	8,007	104.9
	その他費用	2,296	2,373	77	103.4
	合計②	164,107	172,191	8,084	104.9
経常損益③（①－②）	△2,976	△9,090	△6,114	—	
特別利益④	2,307	274	△2,033	11.9	
特別損失⑤	7,871	602	△7,269	7.6	
当期純損益⑥（③＋④－⑤）	△8,540	△9,417	△877	—	

※ 計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

（単位：百万円）

区分	尼崎	西宮	加古川	姫路	丹波	淡路	こころ	こども	がん	粒子線		10病院計	指定管理			計	
										たつの	神戸陽子		災害	リハ中	リハ西		
R4 決算	経常損益	1,149	△144	1,356	△4,163	100	90	170	△49	△35	△955	△494	△2,976	0 (6)	0 (87)	0 (△58)	△2,976 (35)
	純損益	1,159	△131	1,370	△7,477	△2,190	87	175	△55	△30	△955	△494	△8,540	0 (6)	0 (87)	0 (△58)	△8,540 (35)
R5 決算	経常損益	△1,315	△1,028	△1,134	△2,407	△870	△454	△179	△87	△279	△919	△418	△9,090	0 (△25)	0 (41)	0 (△17)	△9,090 (△1)
	純損益	△1,537	△827	△1,190	△2,453	△1,008	△486	△202	△93	△284	△919	△418	△9,417	0 (△25)	0 (41)	0 (△17)	△9,417 (△1)

※1 () 書きは指定管理病院の決算を記載

※2 計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

【業務量(13病院)】

区 分		単位	令和4年度	令和5年度	前年度比較
入院	病床数(年度末)	床	4,290	4,394	104
	病床利用率	%	74.8	78.6	3.8
	延患者数	人	1,164,615	1,263,463	98,848
	1日当たり患者数	人/日	3,190	3,452	262
	平均在院日数	日	12.8	12.8	0.0
	入院単価	円	77,967	78,538	571
外来	延患者数	人	1,710,433	1,744,458	34,025
	1日当たり患者数	人/日	7,037	7,179	142
	外来単価	円	23,154	23,609	455

2 資本的収支の決算状況

(単位：百万円)

区 分	令和4年度	令和5年度	前年増減	主な増減理由	
収入	企業債	12,343	10,731	△ 1,612	はりま姫路総合医療センター整備完了に伴う減
	負担金	7,240	6,990	△ 250	一般会計負担金の減
	その他収入	564	1,040	476	西宮新病院建築工事開始に伴う補助金の増
	合 計	20,148	18,761	△ 1,387	
支出	建設改良費	13,313	12,478	△ 835	はりま姫路総合医療センター整備事業△6,367(6,549→182) 西宮総合医療センター(仮称)整備事業+5,818(651→6,469) がんセンター建替整備事業+334(37→371) 医療機器整備事業△465(5,543→5,078)
	企業債償還金	10,166	11,546	1,380	はりま姫路総合医療センター医療機器償還開始に伴う増
	その他支出	136	115	△ 21	医師修学資金貸付金等の実績減
	合 計	23,616	24,139	523	
差 引	△ 3,468	△ 5,377	△ 1,909		

※ 計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

3 累積欠損金、内部留保資金等

令和5年度末の累積欠損金は、令和5年度の当期純損益(税抜き)が94億円の赤字となったことから496億円となり、204億円の債務超過となった。

また、内部留保資金の残高は、69億円減少し、令和5年度末で33億円となった。

(単位：百万円)

区 分	令和4年度	令和5年度
当期純損益	△ 8,552	△ 9,417
累積欠損金	△ 40,154	△ 49,571
資本合計	△ 11,216	△ 20,356
内部留保資金残高	10,293	3,348

※ 金額は損益計算書ベース(税抜き)で作成

4 令和6年度の取組について

令和6年度も給与改定による給与費の増や物価高騰の継続等、厳しい経営環境が見込まれるが、これまでの収益確保及び費用抑制による収支改善に向けた取組みに加え、本年5月に設置した「県立病院経営対策委員会」において病院経営、企業経営、運営実務の専門家から助言・提言を受けながら、収支改善方策の検討等を行い、各病院と病院局が一体となった経営改善に取り組むことで、持続可能な経営の確保に努める。

同時に、全国的に自治体病院の経営環境が大幅に悪化していることを踏まえ、構造的問題の解決に向け、率先して国への要望活動等も行っていく。

記者発表（資料配布）

月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/17 (火)	尼崎総合医療センター 経営企画部	代表 06-6480-7000 内線 4049	管理局長 和泉 秀樹 (経営企画部長 瀧口 直彦)	県政記者 クラブ

令和5年度 県立尼崎総合医療センターの経営状況について

1 経営状況

- 経常収益は、新型コロナウイルス感染症による患者の受療行動の変容により外来患者数は減少したものの、入院患者数の増加により医業収益が増加した一方、新型コロナウイルス感染症対策関連補助金の減少により、前年度から906百万円減少し、37,863百万円となった。
- 経常費用は、医業収益の増加に連動した材料費の増加に加え物価高騰や賃金上昇という社会経済情勢の影響による給与費、経費の増加により前年度から1,559百万円増加し39,179百万円となった。
- その結果、経常損益は、前年度から2,464百万円悪化し、1,315百万円の赤字となった。
- また、令和4年度給与費の計上年度誤り分等を特別損失に計上したことにより純損益は、前年度から2,696百万円悪化し1,537百万円の赤字となった。

区分	単位	令和4年度	令和5年度	前年度比較			
				増減	割合(%)		
業務量	病床数(年度末)	床	730	730	0	100.0	
	入院	延患者数	人	223,390	234,767	11,377	105.1
		1日当たり患者数	人	612	641	29	104.7
		新規患者数	人	21,174	22,071	897	104.2
		平均在院日数	日	9.5	9.6	0.1	101.1
		診療単価	円	97,289	100,082	2,793	102.9
	外来	延患者数	人	458,221	448,828	△9,393	98.0
		1日当たり患者数	人	1,886	1,847	△39	97.9
		新規患者数	人	33,783	34,170	387	101.1
	診療単価	円	20,866	20,233	△633	97.0	
経常収益	入院収益	百万円	21,733	23,496	1,763	108.1	
	外来収益	百万円	9,561	9,081	△480	95.0	
	その他医業収益	百万円	595	640	45	107.6	
	医業収益計	百万円	31,890	33,217	1,327	104.2	
	一般会計繰入金	百万円	2,906	2,847	△59	98.0	
	その他収益	百万円	3,973	1,799	△2,174	45.3	
	合計①	百万円	38,769	37,863	△906	97.7	
経常費用	給与費	百万円	18,343	18,805	462	102.5	
	材料費	百万円	11,832	12,433	601	105.1	
	経費	百万円	5,111	5,342	231	104.5	
	その他医業費用	百万円	1,986	2,231	245	112.3	
	医業費用計	百万円	37,271	38,811	1,540	104.1	
	その他費用	百万円	349	367	18	105.2	
	合計②	百万円	37,620	39,179	1,559	104.1	
経常損益③(①-②)	百万円	1,149	△1,315	△2,464	-		
特別利益④	百万円	20	8	△12	40.0		
特別損失⑤	百万円	9	230	221	2,555.6		
純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	1,159	△1,537	△2,696	-		

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

(1) 診療機能の充実

①医療の効率性向上

- ・PFM (Patient Flow Management) による適正な平均在院日数の確保 (R4 9.5日→R5 9.6日)
- ・DPC入院期間Ⅲ期及びⅢ期超えの適正な水準の確保 (R4 21.5%→R5 23.8%)
- ・クリニカルパス適用率の拡大 (R4 69.4%→R5 70.8%)

②オペ室の効率的運用

- ・オペ室運用分析に基づく稼働率向上
- ・外保連指数の向上

③診療材料費の適正化

- ・ベンチマークシステムを活用した値引き交渉の強化

(2) 施設・医療機器の整備

- ①遠隔操作型内視鏡下手術支援システム (ダヴィンチ) の更新 (約258百万円、令和5年6月)
- ②抗がん薬混合調整ロボットの整備 (約78百万円、令和6年3月)
- ③サテライト心エコー室整備 (約12百万円、令和5年9月)

3 今後の取組

①医療の効率性向上

- ・PFMによる平均在院日数の短縮
- ・DPC入院期間Ⅲ期及びⅢ期超えの縮減
- ・クリニカルパス適用率の拡大

②オペ室の効率的運用

- ・オペ室運用分析に基づく稼働率向上
- ・外保連指数の向上

③診療材料費の適正化

- ・ベンチマークシステムを活用した値引き交渉の強化

[参 考] 令和5年度 兵庫県病院事業の経営状況について (別紙のとおり)

記者発表（資料配布）

月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/17 (火)	西宮病院 総務部	代表 0798-34-5151 内線 3201	管理局長 安木 雅喜 (総務部長 正垣 雅士)	県政記者 クラブ

令和5年度 県立西宮病院の経営状況について

1 経営状況

- (1) 経常収益は、入院患者の増加や入院単価の上昇により医業収益が 527 百万円増額となったものの、病床稼働率が新型コロナウイルス感染症の流行前の水準に戻らず、昨年度から約 900 百万円減少した空床補償補助金を補うには至らず、前年度から 366 百万円減少し、13,109 百万円となった。
- (2) 経常費用は、高額薬品の使用や手術用診療材料の購入増などによる材料費の増、人件費や物価高騰の影響による経費の増も影響し、前年度から 518 百万円増加し、14,137 百万円となった。
- (3) その結果、経常損益は前年度の 144 百万円の赤字から 884 百万円悪化し、1,028 百万円の赤字となった。

区 分		単位	令和4年度	令和5年度	前年度比較		
					増減	割合(%)	
業務量	病床数(年度末)	床	400	400	0	100.0	
	入院	延患者数	人	108,182	110,950	2,768	102.6
		1日当たり患者数	人	296	303	7	102.4
		新規患者数	人	9,725	9,983	258	102.7
		平均在院日数	日	10.2	10.1	△0.1	99.0
		診療単価	円	70,243	72,154	1,911	102.7
	外来	延患者数	人	149,571	147,278	△2,293	98.5
		1日当たり患者数	人	616	606	△10	98.4
		新規患者数	人	11,282	11,118	△164	98.5
		診療単価	円	19,999	21,034	1,035	105.2
経常収益	入院収益	百万円	7,599	8,005	406	105.3	
	外来収益	百万円	2,991	3,098	107	103.6	
	その他医業収益	百万円	207	221	14	106.8	
	医業収益計	百万円	10,798	11,325	527	104.9	
	一般会計繰入金	百万円	1,136	1,106	△30	97.4	
	その他収益	百万円	1,541	678	△863	44.0	
	合計①	百万円	13,475	13,109	△366	97.3	
経常費用	給与費	百万円	7,867	7,924	57	100.7	
	材料費	百万円	3,248	3,547	299	109.2	
	経費	百万円	1,870	1,906	36	101.9	
	その他医業費用	百万円	564	695	131	123.2	
	医業費用計	百万円	13,549	14,073	524	103.9	
	その他費用	百万円	70	64	△6	91.4	
	合計②	百万円	13,619	14,137	518	103.8	
経常損益③(①-②)	百万円	△144	△1,028	△884	-		
特別利益④	百万円	17	240	223	1,411.8		
特別損失⑤	百万円	4	39	35	975.0		
純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	△131	△827	△696	-		

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

(1) 診療機能の充実

- ① 不整脈外来（令和5年4月）及び骨そしょう症外来（令和5年10月）の開設
- ② 手術の通則19（遺伝性乳癌卵巣癌患者に対する乳房切除術・子宮附属器腫瘍摘出術）及び遺伝カウンセリング加算の取得（令和5年6月、11月）
- ③ 救命救急入院料4の取得（令和5年7月）
- ④ 術後疼痛管理チーム加算の取得（令和5年7月）

(2) 施設・医療機器の整備

- ① CT搭載型ガンマカメラ装置（約138百万円）の整備（令和6年3月）
- ② 手術顕微鏡（約58百万円）の整備（令和6年3月）
- ③ 体外衝撃波結石破碎装置（57百万円）の整備（令和6年2月）
- ④ 全身麻酔システム（約36百万円）の整備（令和6年3月）
- ⑤ 移動型X線撮影装置（約27百万円）の整備（令和6年3月）
- ⑥ 脳外科用手術機械システム（約18百万円）の整備（令和6年3月）

3 今後の取組

- ① 西宮市中央病院との統合新病院の整備を推進
- ② 患者受入体制の強化による救急応需率の向上
- ③ 手術枠の見直しによる手術件数の拡大
- ④ 脳梗塞治療の強化等、循環器系診療の強化

[参 考] 令和5年度 兵庫県病院事業の経営状況について（別紙のとおり）

記者発表（資料配布）

月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/17 (火)	加古川医療センター 総務部	代表 079-497-7000	管理局长 吉川 昭裕 (総務部長 八木 充宏)	県政記者 クラブ

令和5年度 県立加古川医療センターの経営状況について

1 経営状況

- 経常収益は、新型コロナウイルス感染症の診療体制を維持した上で、一般診療体制の確保に努めたことにより、前年度に比べ入院患者数の増により医業収益は増加したが、新型コロナウイルス感染症患者受入れに係る病床確保料等の減少により前年度から3,030百万円減少し、12,738百万円となった。
- 経常費用は、退職給与金等の減による給与費の減少や、建物等の減価償却費の減少により前年度から539百万円減少し、13,872百万円となった。
- その結果、経常損益は、1,134百万円の赤字となり、前年度からは2,490百万円の悪化となった。

区分	単位	令和4年度	令和5年度	前年度比較			
				増減	割合(%)		
業務量	病床数(年度末)	床	353	353	0	100.0	
	入院	延患者数	人	79,541	90,587	11,046	113.9
		1日当たり患者数	人	218	248	30	113.8
		新規患者数	人	6,261	6,869	608	109.7
		平均在院日数	日	11.3	11.1	△0.2	98.2
		診療単価	円	77,856	70,294	△7,562	90.3
	外来	延患者数	人	169,038	165,071	△3,967	97.7
		1日当たり患者数	人	696	679	△17	97.6
		新規患者数	人	8,612	9,214	602	107.0
		診療単価	円	21,686	21,604	△82	99.6
経常収益	入院収益	百万円	6,193	6,368	175	102.8	
	外来収益	百万円	3,666	3,566	△100	97.3	
	その他医業収益	百万円	206	251	45	121.8	
	医業収益計	百万円	10,064	10,185	121	101.2	
	一般会計繰入金	百万円	1,371	1,334	△37	97.3	
	その他収益	百万円	4,333	1,219	△3,114	28.1	
	合計①	百万円	15,768	12,738	△3,030	80.8	
経常費用	給与費	百万円	7,117	6,945	△172	97.6	
	材料費	百万円	3,384	3,358	△26	99.2	
	経費	百万円	2,160	2,174	14	100.6	
	その他医業費用	百万円	1,427	1,104	△323	77.4	
	医業費用計	百万円	14,088	13,580	△508	96.4	
	その他費用	百万円	323	293	△30	90.7	
	合計②	百万円	14,411	13,872	△539	96.3	
経常損益③(①-②)	百万円	1,356	△1,134	△2,490	-		
特別利益④	百万円	14	3	△11	21.4		
特別損失⑤	百万円	0	59	59	-		
純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	1,370	△1,190	△2,560	-		

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

(1) 診療機能の充実

- ① 新型コロナウイルス感染症5類移行後の一般診療体制の確保
 - ・ 3次、2次救急受入れ体制の確保
 - ・ 初診紹介患者確保に向けた地域医療連携の強化
 - ・ 県かこ県民フォーラムや地域医療連携会議開催等による情報発信の強化
- ② 神経難病の入院治療の拡大
- ③ 入院サポートセンターの拡充

(2) 施設・医療機器の整備

- ① 心臓血管連続撮影装置の更新（約149百万円）（令和6年1月）
- ② 手術顕微鏡の更新（約77百万円）（令和6年3月）
- ③ 総合血液学検査システムの更新（約24百万円）（令和6年3月）

3 今後の取組

- ① 救急受入れ体制の強化（外傷系2次救急患者の受入れ促進等）
- ② 県かこ県民フォーラムや地域医療連携会議開催等による情報発信の強化
- ③ 効率的な病床運用体制の構築
- ④ 病院機能評価の受審（令和6年10月）

[参 考] 令和5年度 兵庫県病院事業の経営状況について（別紙のとおり）

記者発表（資料配布）				
月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/17 (火)	はりま姫路総合医療センター 経営企画部	代表 079-289-5080 内線 77021	管理局長 加藤 英樹 (経営企画部長 石田 智司)	県政記者 クラブ

令和5年度 県立はりま姫路総合医療センターの経営状況について

1 経営状況

- 経常収益は、年度当初にフルオープンし稼働病床を640床から736床に拡張したことにより大幅に増加したものの、新型コロナ禍後の受診控え等により患者数の伸びが緩慢となり、前年度比7,108百万円増加の31,174百万円となった。
- 経常費用は、業務量の拡大に比べ材料費・経費等の膨張を抑制した一方、減価償却費の負担が重く、前年度から5,351百万円増加し、33,581百万円となった。
- その結果、経常損益は、前年度から1,756百万円改善し、2,407百万円の赤字となった。

区分	単位	令和4年度	令和5年度	前年度比較			
				増減	割合(%)		
業務量	病床数(年度末)	床	640	736	96	115.0	
	入院	延患者数	人	174,383	218,267	43,884	125.2
		1日当たり患者数	人	478	596	118	124.7
		新規患者数	人	13,584	17,689	4,105	130.2
		平均在院日数	日	12.0	11.4	△0.6	95.0
		診療単価	円	94,908	95,365	457	100.5
	外来	延患者数	人	198,837	250,472	51,635	126.0
		1日当たり患者数	人	818	1,031	213	126.0
		新規患者数	人	18,007	22,056	4,049	122.5
		診療単価	円	19,996	21,885	1,889	109.4
経常収益	入院収益	百万円	16,550	20,815	4,265	125.8	
	外来収益	百万円	3,976	5,482	1,506	137.9	
	その他医業収益	百万円	376	498	122	132.4	
	医業収益計	百万円	20,902	26,794	5,892	128.2	
	一般会計繰入金	百万円	1,760	1,852	92	105.2	
	その他収益	百万円	1,404	2,528	1,124	180.1	
	合計①	百万円	24,066	31,174	7,108	129.5	
経常費用	給与費	百万円	13,516	14,838	1,322	109.8	
	材料費	百万円	8,026	9,890	1,864	123.2	
	経費	百万円	5,584	5,439	△145	97.4	
	その他医業費用	百万円	854	2,964	2,110	347.1	
	医業費用計	百万円	27,980	33,131	5,151	118.4	
	その他費用	百万円	249	449	200	180.3	
	合計②	百万円	28,230	33,581	5,351	119.0	
経常損益③(①-②)	百万円	△4,163	△2,407	1,756	-		
特別利益④	百万円	2,229	4	△2,225	0.2		
特別損失⑤	百万円	5,543	50	△5,493	0.9		
純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	△7,477	△2,453	5,024	-		

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

(1) 診療機能の充実

- ① オンライン診療（健康診断で要精密検査の判定を受けた方を対象）の開始
- ② ドクターカー運用の開始
- ③ 地域医療機関との医師直通電話（ホットライン、歯科口腔外科・消化器内科・小児科）の開設
- ④ 「息切れ外来」の開設
- ⑤ アブレーション実施体制の拡充
- ⑥ 病棟薬剤業務実施加算1・2の取得
- ⑦ 兵庫県立大学先端医療工学研究所との共同研究の推進

(2) 施設・医療機器の整備

- ① 磁気共鳴画像診断装置（約182百万円）の整備（令和5年12月）

3 今後の取組

- ① クリニック訪問などによる地域医療連携の推進
- ② DPC対応力の更なる向上
- ③ ベンチマークシステムを活用した診療材料の値引き交渉の強化
- ④ FMラジオによる広報の強化
- ⑤ 臨床研究の推進

[参 考] 令和5年度 兵庫県病院事業の経営状況について（別紙のとおり）

記者発表（資料配布）

月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/17 (火)	丹波医療センター 総務部	代表 0795-88-5200 内線 1321	管理局長 細見 和正 (総務部長 井上 弘之)	県政記者 クラブ

令和5年度 県立丹波医療センターの経営状況について

1 経営状況

- 経常収益は、令和4年度にオープンした回復期リハビリテーション病棟の安定稼働、救急患者の受け入れ促進等による患者数の増加、手術件数や外来化学療法件数の増加等による診療単価の向上により医業収益は増加したものの、新型コロナウイルス感染症対策関連補助金の減少により、前年度から493百万円減少し、10,307百万円となった。
- 経常費用は、給与改定や退職給与引当金の増加による給与費の増加、手術件数や外来化学療法件数の増加に伴う材料費の増や、建物・機器の修繕、保守料の増加による経費の増などにより、前年度から476百万円増加し、11,176百万円となった。
- その結果、経常損益は、前年度から970百万円悪化し、870百万円の赤字となった。
- また、特別損失に計上される旧柏原病院建物の解体撤去に係る費用が減少したことにより、純損益は前年度から1,182百万円の改善したものの、1,008百万円の赤字である。

区分	単位	令和4年度	令和5年度	前年度比較			
				増減	割合(%)		
業務量	病床数(年度末)	床	320	320	0	100.0	
	入院	延患者数	人	93,686	99,959	6,273	106.7
		1日当たり患者数	人	257	273	16	106.2
		新規患者数	人	6,438	6,624	186	102.9
		平均在院日数	日	13.6	14.1	0.5	103.7
		診療単価	円	56,976	55,912	△1,064	98.1
	外来	延患者数 (医療センター分)	人	135,741 (119,656)	131,880 (117,117)	△3,861 △2,539	97.2 (97.9)
		1日当たり患者数 (医療センター分)	人	559 (492)	543 (482)	△16 △10	97.1 (98.0)
		新規患者数 (医療センター分)	人	19,732 (15,003)	17,265 (14,228)	△2,467 △775	87.5 (94.8)
		診療単価 (医療センター分)	円	16,168 (17,115)	16,285 (17,109)	117 △6	100.7 (100.0)
入院収益		百万円	5,338	5,589	251	104.7	
経常収益	外来収益 (医療センター分)	百万円	2,195 (2,048)	2,148 (2,004)	△47 △44	97.9 (97.9)	
	その他医業収益	百万円	404	397	△7	98.3	
	医業収益計	百万円	7,937	8,134	197	102.5	
	一般会計繰入金	百万円	949	929	△20	97.9	
	その他収益	百万円	1,914	1,244	△670	65.0	
	合計①	百万円	10,800	10,307	△493	95.4	
	経常費用	百万円	5,290	5,541	251	104.7	
経常費用	材料費	百万円	1,823	1,894	71	103.9	
	経費	百万円	2,192	2,327	135	106.2	
	その他医業費用	百万円	1,157	1,160	3	100.3	
	医業費用計	百万円	10,462	10,922	460	104.4	
	その他費用	百万円	239	254	15	106.3	
	合計②	百万円	10,700	11,176	476	104.4	
経常損益③(①-②)	百万円	100	△870	△970	-		
特別利益④	百万円	2	11	9	550.0		
特別損失⑤	百万円	2,291	150	△2,141	6.5		
純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	△2,190	△1,008	1,182	-		

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

(1) 診療機能の充実

- ① 回復期リハビリテーション病棟（45床 令和4年4月1日オープン）の安定稼働
（延患者数：令和4年度 12,552人 → 令和5年度 14,507人）
- ② 地域医療循環型人材育成プログラムの継続実施（平成20年10月～神戸大学に委託）

(2) 施設・医療機器の整備

- ① 磁気共鳴コンピューター断層撮影装置の更新（改良）（約1億2千万円）（6年3月）
- ② 手術用内視鏡システム及び経尿道手術機器一式の更新（約3千9百万円）（6年3月）

3 今後の取組

- ① 丹波市ミルネ診療所、健診センター、訪問看護ステーションとの一体的な運営による患者の確保
- ② 消防本部との連携強化による救急患者の受入促進
- ③ 地域医療連携の強化
- ④ 地域医療教育センターによる人材育成の推進

[参 考] 令和5年度 兵庫県病院事業の経営状況について（別紙のとおり）

記者発表（資料配布）

月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/17 (火)	淡路医療センター 総務部	代表 0799-22-1200	管理局長 高崎 徳子 (総務部長 水嶋 裕一)	県政記者 クラブ

令和5年度 県立淡路医療センターの経営状況について

1 経営状況

- (1) 経常収益は、新型コロナウイルス感染症患者受入れに伴う入院病床の確保、病床調整、手術制限等はあったが、前年度に比べ患者数の増加により、医業収益は増加したものの、空床補償をはじめ新型コロナウイルス感染症関係補助金等の減少により、前年度から 86 百万円減少し、15,907 百万円となった。
- (2) 経常費用は、患者数の増に伴う薬品費・診療材料費等の増加により材料費が多額となったため、前年度から 458 百万円増加し、16,361 百万円となった。
- (3) 経常損益は前年度から 544 百万円減少し、454 百万円の赤字となった。
- (4) その結果、純損益は前年度から 573 百万円減少し、486 百万円の赤字となった。

区分	単位	令和4年度	令和5年度	前年度比較			
				増減	割合(%)		
業務量	病床数(年度末)	床	441	441	0	100.0	
	入院	延患者数	人	121,420	125,673	4,253	103.5
		1日当たり患者数	人	333	343	10	103.0
		新規患者数	人	8,812	9,108	296	103.4
		平均在院日数	日	12.8	12.8	0.0	100.0
		診療単価	円	77,476	77,332	△144	99.8
	外来	延患者数	人	191,236	193,306	2,070	101.1
		1日当たり患者数	人	787	795	8	101.0
		新規患者数	人	13,341	13,569	228	101.7
		診療単価	円	17,165	17,662	497	102.9
経常収益	入院収益	百万円	9,407	9,719	312	103.3	
	外来収益	百万円	3,282	3,414	132	104.0	
	その他医業収益	百万円	185	188	3	101.6	
	医業収益計	百万円	12,874	13,320	446	103.5	
	一般会計繰入金	百万円	1,698	1,657	△41	97.6	
	その他収益	百万円	1,421	930	△491	65.4	
	合計①	百万円	15,993	15,907	△86	99.5	
経常費用	給与費	百万円	7,894	7,898	4	100.1	
	材料費	百万円	4,272	4,587	315	107.4	
	経費	百万円	2,318	2,473	155	106.7	
	その他医業費用	百万円	1,129	1,135	6	100.5	
	医業費用計	百万円	15,614	16,092	478	103.1	
	その他費用	百万円	289	268	△21	92.7	
	合計②	百万円	15,903	16,361	458	102.9	
経常損益③(①-②)	百万円	90	△454	△544	-		
特別利益④	百万円	2	0	△2	0.0		
特別損失⑤	百万円	5	32	27	640.0		
純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	87	△486	△573	-		

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

(1) 診療機能の充実

- ① アンギオ室の診療機能充実及び不整脈治療（アブレーション治療）の効率的運用
- ② 地域連携クリニカルパスの充実
- ③ 手術支援ロボットの導入

(2) 施設・医療機器の整備

- ① 全自動生化学免疫分析搬送システム (約79百万円) の整備 (5年5月)
- ② 全自動ジェット式洗浄装置 (約13百万円) の整備 (5年6月)
- ③ 内視鏡手術支援ロボット (約330百万円) の整備 (5年7月)
- ④ 医療用直線加速装置 (約430百万円) の整備 (5年8月)
- ⑤ 基幹系バックアップ装置 (約18百万円) の整備 (5年9月)
- ⑥ 自動採血管準備装置 (約39百万円) の整備 (5年11月)
- ⑦ フラットパネルディテクタ搭載型モバイルCアーム (約14百万円) の整備 (5年12月)
- ⑧ 低温蒸気ホルムアルデヒド滅菌併用高圧蒸気滅菌器 (約15百万円) の整備 (6年3月)
- ⑨ 患者Wifiシステム (約17百万円) の整備 (6年3月)

3 今後の取組

- ① 手術支援ロボットの効率的運用
- ② 血管造影X線撮影装置更新による早期運用開始
- ③ 手術室の効率的稼働及び適切な病床管理
- ④ 新規・上位の施設基準の取得
- ⑤ クリニカルパスの見直し、DPC入院期間Ⅱ以内での退院の促進
- ⑥ 地域医療連携の推進
- ⑦ 価格交渉の強化による診療材料費の節減

【参 考】 令和5年度 兵庫県病院事業の経営状況について（別紙のとおり）

記者発表（資料配布）

月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/17 (火)	ひょうごこころの医療センター 総務部	代表 078-581-1013 内線 2612	管理局長 門田 高弘 (総務部長 岡本 和久)	県政記者 クラブ

令和5年度 県立ひょうごこころの医療センターの経営状況について

1 経営状況

- (1) 入院収益は、児童思春期病棟をはじめ、コロナ5類感染症移行に伴う救急病床の拡大等により入院患者が全般的に増加したことから、前年度から125百万円増の1,665百万円となった。外来収益については、児童思春期精神科や老年精神科を中心に外来患者が増加したことから、前年度から24百万円増の366百万円となった。一方で、コロナ関連補助金が大幅に減少したため、経常収益は、前年度から286百万円減の4,222百万円となった。
- (2) 経常費用は、主に給与費の増加により、前年度から64百万円増加し、4,402百万円となった。
- (3) その結果、経常損益は、前年度から349百万円減少し、179百万円の赤字となった。
また、特別利益、特別損失を含む当期純損益は、前年度から377百万円減少し、202百万円の赤字となった。

区 分		単 位	令和4年度	令和5年度	前年度比較		
					増減	割合(%)	
業務量	病床数(年度末)	床	254	254	0	100.0	
	入 院	延患者数	人	55,273	60,939	5,666	110.3
		1日当たり患者数	人	151	167	16	110.6
		新規患者数	人	1,140	1,117	△23	98.0
		診療単価	円	27,861	27,317	△544	98.0
	外 来	延患者数	人	49,449	50,305	856	101.7
		1日当たり患者数	人	203	207	4	102.0
		新規患者数	人	2,493	2,125	△368	85.2
診療単価		円	6,921	7,274	353	105.1	
経常収益	入院収益	百万円	1,540	1,665	125	108.1	
	外来収益	百万円	342	366	24	107.0	
	その他医業収益	百万円	17	17	0	100.0	
	医業収益計	百万円	1,899	2,048	149	107.8	
	一般会計繰入金	百万円	1,719	1,731	12	100.7	
	その他収益	百万円	890	444	△446	49.9	
	合計①	百万円	4,508	4,222	△286	93.7	
経常費用	給与費	百万円	2,991	3,097	106	103.5	
	材料費	百万円	185	177	△8	95.7	
	経費	百万円	634	639	5	100.8	
	その他医業費用	百万円	440	413	△27	93.9	
	医業費用計	百万円	4,249	4,326	77	101.8	
	その他費用	百万円	89	75	△14	84.3	
	合計②	百万円	4,338	4,402	64	101.5	
経常損益③(①-②)		百万円	170	△179	△349	-	
特別利益④		百万円	10	0	△10	0.0	
特別損失⑤		百万円	5	23	18	460.0	
純損益⑥(③+④-⑤)		百万円	175	△202	△377	-	

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

2 施設・医療機器の整備状況

- ① 厨房機器（スチームコンヴェクション他 19 点）の整備 27,225 千円（栄養管理課）
- ② 和式トイレ等改修工事 23,650 千円

3 今後の取組

- ① 地域医療機関等との連携強化による患者確保対策の促進
- ② 救急医療の更なる推進

[参 考] 令和5年度 兵庫県病院事業の経営状況について（別紙のとおり）

記者発表（資料配布）

月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/17 (火)	こども病院 総務部	代表 078-95-7300 内線 24010	管理局長 菅澤 真央 (総務部長 喜多 晃)	県政記者 クラブ

令和5年度 県立こども病院の経営状況について

1 経営状況

- (1) 経常収益は、新型コロナ病床確保に係る補助金が減少したものの、救急患者数の増加等により入院収益が増加したことから、前年度から197百万円増加し、14,593百万円となった。
- (2) 経常費用は、給与改定による給与費の増、薬品費の増加による材料費の増等により前年度から235百万円増加し、14,680百万円となった。
- (3) その結果、経常損益は前年度より38百万円悪化し、87百万円の赤字となった。

区 分		単位	令和4年度	令和5年度	前年度比較		
					増減	割合(%)	
業務量	病床数(年度末)	床	282	290	8	102.8	
	入院	延患者数	人	82,809	88,699	5,890	107.1
		1日当たり患者数	人	227	242	15	106.6
		新規患者数	人	6,638	7,445	807	112.2
		平均在院日数	日	11.5	10.9	△0.6	94.8
		診療単価	円	105,169	106,173	1,004	101.0
	外来	延患者数	人	111,753	110,708	△1,045	99.1
		1日当たり患者数	人	460	456	△4	99.1
		新規患者数	人	15,443	15,895	452	102.9
		診療単価	円	17,491	18,232	741	104.2
経常収益	入院収益	百万円	8,709	9,417	708	108.1	
	外来収益	百万円	1,955	2,018	63	103.2	
	その他医業収益	百万円	134	137	3	102.2	
	医業収益計	百万円	10,798	11,573	775	107.2	
	一般会計繰入金	百万円	2,306	2,281	△25	98.9	
	その他収益	百万円	1,292	739	△553	57.2	
	合計①	百万円	14,396	14,593	197	101.4	
経常費用	給与費	百万円	8,405	8,554	149	101.8	
	材料費	百万円	2,476	2,719	243	109.8	
	経費	百万円	2,292	2,336	44	101.9	
	その他医業費用	百万円	1,117	915	△202	81.9	
	医業費用計	百万円	14,291	14,524	233	101.6	
	その他費用	百万円	155	156	1	100.6	
	合計②	百万円	14,445	14,680	235	101.6	
経常損益③(①-②)	百万円	△49	△87	△38	—		
特別利益④	百万円	2	5	3	250.0		
特別損失⑤	百万円	7	11	4	157.1		
純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	△55	△93	△38	—		

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

(1) 診療機能の充実

- ① CAR-T 細胞療法（キムリア）の提供
- ② PICU の増床（14→16 床）

(2) 施設・医療機器の整備

- ① 血管連続撮影装置の更新（約 149 百万円）
- ② ガンマカメラ装置の更新（約 52 百万円）
- ③ セントラルモニタシステムの更新（約 35 百万円）

3 今後の取組

- ・ 臨床研究の積極的实施
- ・ ドクターカー搬送業務体制強化
- ・ 入退院支援センターの対象診療科拡大

[参 考] 令和5年度 兵庫県病院事業の経営状況について（別紙のとおり）

記者発表（資料配布）

月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/17 (火)	がんセンター 総務部	代表 078-929-1151 内線 8180(8017)	管理局長 柏木 英士 (総務部長 栗飯原 弘尚)	県政記者 クラブ

令和5年度 県立がんセンターの経営状況について

1 経営状況

- (1) 新型コロナウイルス感染症の流行が一定収束に向かう中、引き続きコロナ患者を受入れつつ効率的な病院運営を行った結果、入院、外来ともに延患者数及び診療単価が増加したことから、医業収益は421百万円増加した。一方で、コロナ関連補助金が424百万円減少したこと等により、その他収益が468百万円減少し、経常収益は前年度から78百万円減少し、18,679百万円となった。
- (2) 経常費用は、退職給与金の減少（長期勤続退職者の減）等に伴い給与費が235百万円減少したものの、医業収益の増加に連動した材料費等の増加により、前年度から166百万円増加し、18,958百万円となった。
- (3) この結果、経常損益は、前年度から244百万円悪化し、279百万円の赤字となった。

区分	単位	令和4年度	令和5年度	前年度比較			
				増減	割合(%)		
業務量	病床数（年度末）	床	360	360	0	100.0	
	入院	延患者数	人	90,761	91,141	380	100.4
		1日当たり患者数	人	249	249	0	100.0
		新規患者数	人	7,258	7,274	16	100.2
		平均在院日数	日	11.5	11.5	0.0	100.0
	外来	診療単価	円	75,731	76,818	1,087	101.4
		延患者数	人	165,985	166,475	490	100.3
		1日当たり患者数	人	683	685	2	100.3
新規患者数		人	8,641	8,520	△121	98.6	
	診療単価	円	56,665	58,584	1,919	103.4	
経常収益	入院収益	百万円	6,873	7,001	128	101.9	
	外来収益	百万円	9,405	9,753	348	103.7	
	その他医業収益	百万円	435	380	△55	87.4	
	医業収益計	百万円	16,714	17,135	421	102.5	
	一般会計繰入金	百万円	873	842	△31	96.4	
	その他収益	百万円	1,170	702	△468	60.0	
	合計①	百万円	18,757	18,679	△78	99.6	
経常費用	給与費	百万円	6,832	6,597	△235	96.6	
	材料費	百万円	8,687	9,199	512	105.9	
	経費	百万円	2,200	2,173	△27	98.8	
	その他医業費用	百万円	970	886	△84	91.3	
	医業費用計	百万円	18,689	18,855	166	100.9	
	その他費用	百万円	102	103	1	101.0	
	合計②	百万円	18,792	18,958	166	100.9	
経常損益③(①-②)	百万円	△35	△279	△244	—		
特別利益④	百万円	11	2	△9	18.2		
特別損失⑤	百万円	6	7	1	116.7		
純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	△30	△284	△254	—		

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

(1) 診療機能の充実

- ① ゲノム医療の推進
 - ・がんゲノム医療拠点病院（全国で32機関）
 - ・遺伝子パネル検査の実施（令和5年度実績：168件）
 - ・先進医療の実施
 - ・県内他院に対する遺伝診療の応援
- ② がん相談支援センターの機能強化
- ③ 入退院支援センターの機能充実
- ④ 希少がんセンターの開設
- ⑤ チーム医療の充実
- ⑥ AYA世代サポートチームの活動強化

(2) 施設・医療機器の整備

- ① 内視鏡下手術支援システムの更新（約255百万円）（令和5年5月）
- ② 生化学・免疫自動分析装置一式の更新（約79百万円）（令和5年7月）
- ③ 手術顕微鏡の更新（約71百万円）（令和6年3月）
- ④ 手術ナビゲーションシステムの整備（約53百万円）（令和6年2月）
- ⑤ デジタル乳房X線撮影装置の更新（約53百万円）（令和5年6月）
- ⑥ 汎用超音波診断装置の更新（約30百万円）（令和5年12月）
- ⑦ 内視鏡システム一式の更新（約28百万円）（令和5年10月）
- ⑧ 心臓超音波診断装置の更新（約24百万円）（令和6年3月）

3 今後の取組

- ① がんゲノム医療拠点病院としての機能強化
 - ・遺伝子パネル検査の実施、検査対象患者への支援
 - ・ゲノム外来、遺伝外来（遺伝カウンセリングを含む）の充実
- ② リニアックによる高精度放射線治療（IMRT、定位照射）の促進
- ③ 都道府県がん診療連携拠点病院としての連携強化
 - ・地域医療機関への訪問、意見交換
 - ・市内がん検診実施医療機関への患者紹介の働きかけ
 - ・相談支援センターにおける治療と仕事の両立支援強化
- ④ 治験・臨床研究の推進
- ⑤ 低侵襲手術等への取り組み（ダヴィンチ、腹腔鏡、胸腔鏡）
- ⑥ 脳神経外科の診療促進
- ⑦ がん患者リハビリテーションの強化
- ⑧ 新病院建築工事等の着工

【参 考】 令和5年度 兵庫県病院事業の経営状況について（別紙のとおり）

記者発表（資料配布）

月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/17 (火)	粒子線医療センター 事務部	代表 0791-58-0100 内線 272	事務部長 天羽 由浩 (総務課長 八雲 順乗)	県政記者 クラブ

令和5度 県立粒子線医療センターの経営状況について

1 経営状況

(1) 経常収益は、令和4年4月に保険適用となった疾患を中心として、紹介元医療機関向け及び患者・一般向け広報に積極的に取組んだことから、実患者数が入院・外来とも増加し医業収益は前年度比75百万円増加した。一方、医業外収益等のその他収益が減少したことから、総額では前年度比88百万円減少の2,612百万円であった。

(内訳 たつの：1,653百万円、神戸：959百万円)

(2) 経常費用は、耐用年数経過に伴う減価償却費の減少の他、放射線管理機器の見直しによる経費の削減などにより、前年度比199百万円減少の3,949百万円となった。

(内訳 たつの：2,572百万円、神戸：1,377百万円)

(3) 上記の理由により経常損益は、前年度より112百万円改善し、1,337百万円の赤字となっている。

(内訳 たつの：△919百万円、神戸：△418百万円)

区分	単位	令和4年度	令和5年度	前年度比較			
				増減	割合(%)		
業務量	病床数(年度末)	床	50	50	0	100.0	
	入院	延患者数	人	8,722	8,599	△123	98.6
		1日当たり患者数	人	24	23	△1	95.8
		実患者数	人	207	218	11	105.3
		診療単価	円	75,127	78,041	2,914	103.9
	外来	延患者数	人	13,371	14,293	922	106.9
		1日当たり患者数	人	55	59	4	107.3
		実患者数	人	354	375	21	105.9
診療単価		円	61,619	61,810	191	100.3	
経常収益	入院収益	百万円	655	671	16	102.4	
	外来収益	百万円	824	883	59	107.2	
	その他医業収益	百万円	7	7	0	100.0	
	医業収益計	百万円	1,487	1,562	75	105.0	
	一般会計繰入金	百万円	537	493	△44	91.8	
	その他収益	百万円	676	557	△119	82.4	
	合計①	百万円	2,700	2,612	△88	96.7	
経常費用	給与費	百万円	944	957	13	101.4	
	材料費	百万円	79	82	3	103.8	
	経費	百万円	1,724	1,720	△4	99.8	
	その他医業費用	百万円	1,045	923	△122	88.3	
	医業費用計	百万円	3,792	3,681	△111	97.1	
	その他費用	百万円	356	268	△88	75.3	
	合計②	百万円	4,148	3,949	△199	95.2	
経常損益③(①-②)	百万円	△1,449	△1,337	112	-		
特別利益④	百万円	0	0	0	-		
特別損失⑤	百万円	0	0	0	-		
純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	△1,449	△1,337	112	-		

※1 県立粒子線医療センター(たつの)と神戸陽子線センター(神戸)を合算している。

※2 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

(1) 診療機能の充実

- ① 県立粒子線医療センター、附属神戸陽子線センター、県立がんセンターによるがん診療ネットワークの運用（テレビ会議システム等を活用したがん診療ボードの実施。）
（令和5年度実施回数：607回）
- ② 保険適用の拡大に向けた臨床試験（先進医療B）の実施
- ③ 肝がん・膵がんに対する粒子線治療の治療成績と安全性の向上
- ④ 紹介元医療機関の新規開拓のための医療従事者サイトでの情報発信及びオンライン意見交換会の実施（兵庫県内、中国・四国地域の消化器内科・外科医等3,807名への配信）
- ⑤ 患者・一般向け「ウェビナー」の開催（令和5年度実施回数11回、31人参加）
- ⑥ オンライン診療による患者利便性の向上（令和5年度利用者139人（たつの：66人、神戸：73人））
- ⑦ メディアミックスによる広報の展開

3 今後の取組

- ① 保険適用拡大を受けた広報活動の充実
- ② 医療従事者専用サイトを活用した情報発信
- ③ 患者・一般向けウェビナー、見学会・講演会の開催

[参 考] 令和5年度 兵庫県病院事業の経営状況について（別紙のとおり）

記者発表（資料配布）

月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/17 (火)	兵庫県災害医療センター 事務部	代表 078-241-3131	事務部長 北川 直人 (総務課長 松原 良和)	県政記者 クラブ

令和5年度 兵庫県災害医療センターの経営状況について

1 経営状況

- 経常収益は、昨年と比較し診療単価は増加したものの、新規患者の減により入院収益が減少したことなどにより、前年度から30百万円減少し、2,292百万円となった。
- 経常費用は、経費が減少したものの、給与費の増加に加え、高額医薬品の使用増等による、材料費の増により前年度から2百万円増加し、2,317百万円となった。
- 経常損益は、前年度より31百万円減少し、25百万円の赤字となった。

区分	単位	令和4年度	令和5年度	前年度比較			
				増減	割合(%)		
業務量	病床数(年度末)	床	30	30	0	100.0	
	入院	延患者数	人	8,477	7,905	△ 572	93.3
		1日当たり患者数	人	23	22	△ 1	95.7
		新規患者数	人	1,009	959	△ 50	95.0
		平均在院日数	日	7.3	7.3	0.0	100.0
		診療単価	円	178,117	181,742	3,625	102.0
	外来	延患者数	人	1,047	250	△ 797	23.9
		1日当たり患者数	人	3	1	△ 2	33.3
		新規患者数	人	879	239	△ 640	27.2
		診療単価	円	94,349	337,716	243,367	357.9
経常収益	入院収益	百万円	1,515	1,437	△ 78	94.9	
	外来収益	百万円	99	84	△ 15	84.8	
	その他医業収益	百万円	26	12	△ 14	46.2	
	医業収益計	百万円	1,639	1,533	△ 106	93.5	
	一般会計繰入金	百万円	0 (681)	0 (739)	0	—	
	指定管理料収入	百万円	625	673	48	107.7	
	その他収益	百万円	58 (157)	86 (146)	28	148.3	
合計①	百万円	2,322 (838)	2,292 (885)	△ 30	98.7		
経常費用	給与費	百万円	1,340 (33)	1,422 (46)	82	106.1	
	材料費	百万円	511	488	△ 23	95.5	
	経費	百万円	354 (626)	293 (674)	△ 61	82.8	
	その他医業費用	百万円	18 (142)	16 (130)	△ 2	88.9	
	医業費用計	百万円	2,223 (802)	2,219 (850)	△ 4	99.8	
	その他費用	百万円	93 (37)	99 (35)	6	106.5	
	合計②	百万円	2,315 (838)	2,317 (885)	2	100.1	
経常損益③(①-②)	百万円	6 (0)	△ 25 (0)	△ 31	—		
特別利益④	百万円	0	0	0	—		
特別損失⑤	百万円	0	0	0	—		
純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	6 (0)	△ 25 (0)	△ 31	—		

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

※2 参考として、病院局決算（指定管理料、派遣職員給与費等）を（ ）書きで記載している。

2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

(1) 診療機能の充実

- ① 高度救命救急センターとして、医療の質及び救命率の向上を図るため、新型コロナ対策を勘案したハイブリッドER（高度救命初療室）診療やECPR（体外循環式心肺蘇生法）と一連の体温管理療法プロトコルを確立し、実践・運用を行っている。
- ② 神戸市域を中心に県内各地から3次救急患者の受入れを行うほか、ドクターカーの運行やドクターヘリによる搬送患者の受入れを行い、重篤患者に対応する高度救命救急センターとしての役割を果たした。
- ③ 基幹災害拠点病院として、災害時の患者受入れ体制の強化を図るとともに、DMAT隊員や救急救命士などの災害医療従事者に対する研修や訓練を実施している。
- ④ 神戸市を始めとする県内消防機関及び2次救急医療機関と連携を強化し、引き続き重症患者の受入れ促進を図るとともに、令和5年5月より新型コロナウイルスの扱いが5類に移行したことに伴い、感染症に対する責任病床2床を確保し、感染症患者の受入れ体制を整備した。
- ⑤ MSW（社会福祉士）の早期積極的介入やひょうごこころの医療センター等との診療協力による適切なベッドコントロールにより在院日数の適正化を図り、円滑な転院を進めた。
- ⑥ 新たに病院救命士の採用を開始するとともに、専門看護師や医師事務補助者等の活用を図ることにより、タスク・シフトを促進している。

(2) 施設・医療機器の整備

- ① 生体情報モニタの更新（23百万円）（令和6年3月）
- ② 血管造影X線撮影装置更新（170百万円）（令和6年3月）
- ③ ドクターカー及び搭載医療機器更新（38百万円）（令和6年3月）

3 今後の取組

- (1) ハイブリッドER診療、ECPRと一連の体温管理療法プロトコル適応症例の積み重ねを行い、これら特徴的な臨床現場を、研修医師など院内外のメディカルスタッフの研鑽の場として提供する。
- (2) 県内の各消防本部や2次・3次医療施設と連携をとることで患者受入れ・後送を円滑に行い、コロナ禍が明けても同様に地域医療における当センターの使命である外因を中心とした重症症例の集約施設としての機能を消防・近隣医療機関と連携しつつ、維持向上させる。
- (3) 開院から20年を経過し、進む施設や医療機器の老朽化に対応するため、医療機器の適切な更新を図るとともに、施設や設備についても必要な点検、修理を実施し、機能維持に努める。
- (4) 現在のBCPは地震想定部分が多いことから、感染症アウトブレイクやパンデミック、風水害にも適用できるようオールハザードを基本として改訂を図る。
- (5) 新興及び再興感染症対策を講じながら、救急医、特定看護師、DMAT隊員や救急救命士の教育研修会（OFF-JT）を実施し、引き続き県内外の救急災害医療従事者の人材育成を図る。

【参 考】 令和5年度 兵庫県病院事業の経営状況について（別紙のとおり）

記者発表（資料配布）

月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/17 (火)	リハビリテーション中央病院 総務部	代表 078-927-2727 内線 2228	管理局長 隅岡 繁宏 (総務部長 中西 潤)	県政記者 クラブ

令和5年度 県立リハビリテーション中央病院の経営状況について

1 経営状況

- 経常収益は、入院患者数の増加、手術件数の増加及びリハビリ実施単位数の増等により医業収益が増加した一方、新型コロナウイルス感染症対策関連補助金等のその他収益が減少したことにより、前年度から119百万円減少し、5,255百万円となった。
- 経常費用は、セラピストの増員等による給与費の増加や手術件数の増加により材料費が増加した一方、経費の節減により、前年度に比べ73百万円減少し、5,214百万円となった。
- その結果、経常損益は、前年度よりも46百万円減少し、41百万円となった。

区分	単位	令和4年度	令和5年度	前年度比較			
				増減	割合(%)		
業務量	病床数(年度末)	床	330	330	0	100.0	
	入院	延患者数	人	87,288	94,380	7,092	108.1
		1日当たり患者数	人	239	258	19	107.9
		新規患者数	人	1,793	1,960	167	109.3
		平均在院日数	日	48.2	47.4	△0.8	98.3
	診療単価	円	39,935	40,117	182	100.5	
	外来	延患者数	人	56,856	56,866	10	100.0
		1日当たり患者数	人	234	234	0	100.0
		新規患者数	人	2,935	2,875	△60	98.0
		診療単価	円	17,214	16,946	△268	98.4
経常収益	入院収益	百万円	3,486	3,786	300	108.6	
	外来収益	百万円	979	964	△15	98.5	
	その他医業収益	百万円	69	74	5	107.2	
	医業収益計	百万円	4,534	4,824	290	106.4	
	一般会計繰入金	百万円	0(322)	0(329)	0	—	
	指定管理料収入	百万円	288	317	29	110.1	
	その他収益	百万円	552(394)	114(354)	△438	20.7	
	合計①	百万円	5,374(716)	5,255(683)	△119	97.8	
経常費用	給与費	百万円	2,780(21)	2,806(10)	26	100.9	
	材料費	百万円	1,181	1,279	98	108.3	
	経費	百万円	1,326(300)	1,129(318)	△197	85.1	
	その他医業費用	百万円	0(370)	0(329)	0	—	
	医業費用計	百万円	5,287(691)	5,214(657)	△73	98.6	
	その他費用	百万円	0(25)	0(25)	0	—	
	合計②	百万円	5,287(716)	5,214(683)	△73	98.6	
経常損益③(①-②)	百万円	87(0)	41(0)	△46	—		
特別利益④	百万円	0(0)	0(0)	0	—		
特別損失⑤	百万円	0	0	0	—		
純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	87(0)	41(0)	△46	—		

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

※2 参考として、病院局決算(指定管理料、派遣職員給与費等)を()書きで記載している。

2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

(1) 診療機能の充実

- ① 回復期リハビリテーション病棟においてより質の高いリハビリテーションの提供
- ② 「スポーツ医学診療センター」におけるスポーツ障害等に対する包括的な対応

(2) 施設・医療機器の整備

- ① 関節鏡（約 12 百万円）の整備（5 年 12 月）
- ② 臨床化学自動分析装置（約 13 百万円）の更新（6 年 1 月）
- ③ 高圧蒸気滅菌装置（約 16 百万円）の更新（6 年 2 月）
- ④ 患者用Wi-Fi設備（約 15 百万円）の設置（6 年 3 月）

3 今後の取組

- ① リハビリテーション入院機能の充実
- ② 地域医療連携の強化

【参 考】 令和5年度 兵庫県病院事業の経営状況について（別紙のとおり）

記者発表（資料配布）

月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/17 (火)	リハビリテーション西播磨病院 業務部	代表 0791-58-1050 内線 204	管理局長 春名 常洋 (業務部長 木村 晃一)	県政記者 クラブ

令和5年度 県立リハビリテーション西播磨病院の経営状況について

1 経営状況

- 経常収益は、急性期病院との連携を強化し、紹介患者の確保を図るために病院訪問を積極的に行った結果として患者数が増加、これに伴い、入院料やリハビリテーション料を中心として、前年度比較で59百万円増加し、1,775百万円となった。
- 経常費用は、円滑な患者確保を図るために総合相談・地域連携部門の体制を強化したことによる給与費の増加や患者数増加による材料費の増加などに伴い、前年度比較で18百万円増加し、1,792百万円となった。
- 経常損益は、前年度比較で41百万円改善し、17百万円の赤字となった。

区分	単位	令和4年度	令和5年度	前年度比較			
				増減	割合(%)		
業務量	病床数(年度末)	床	100	100	0	100.0	
	入院	延患者数	人	30,683	31,597	914	103.0
		1日当たり患者数	人	84	86	2	102.4
		新規患者数	人	484	515	31	106.4
		平均在院日数	日	63.1	60.0	△ 3.1	95.1
		診療単価	円	39,197	39,889	692	101.8
	外来	延患者数	人	9,324	8,727	△ 597	93.6
		1日当たり患者数	人	38	36	△ 2	94.7
		新規患者数	人	1,149	1,182	33	102.9
		診療単価	円	35,208	37,563	2,355	106.7
経常収益	入院収益	百万円	1,203	1,260	57	104.7	
	外来収益	百万円	328	328	0	100.0	
	その他医業収益	百万円	32	25	△ 7	78.1	
	医業収益計	百万円	1,563	1,613	50	103.2	
	一般会計繰入金	百万円	0 (133)	0 (123)	0	—	
	指定管理料収入	百万円	119	120	1	100.8	
	その他収益	百万円	33 (213)	42 (206)	9	127.3	
	合計①	百万円	1,716 (346)	1,775 (329)	59	103.4	
経常費用	給与費	百万円	1,021 (11)	1,033 (0)	12	101.2	
	材料費	百万円	305	312	7	102.3	
	経費	百万円	448 (120)	447 (120)	△ 1	99.8	
	その他医業費用	百万円	0 (202)	0 (194)	0	—	
	医業費用計	百万円	1,774 (333)	1,792 (314)	18	101.0	
	その他費用	百万円	0 (13)	0 (14)	0	—	
	合計②	百万円	1,774 (346)	1,792 (329)	18	101.0	
経常損益③(①-②)	百万円	△ 58 (0)	△ 17 (0)	41	—		
特別利益④	百万円	0	0	0	—		
特別損失⑤	百万円	0	0	0	—		
純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	△ 58 (0)	△ 17 (0)	41	—		

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

※2 参考として、病院局決算（指定管理料、派遣職員給与費等）を（ ）書きで記載している。

2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

(1) 診療機能の充実

- ① もの忘れ外来の診療機能充実（令和5年4月）
- ② 県内他医療機関に先駆けて、アルツハイマー病による「軽度認知障害（MCI）」及び「軽度の認知症」を対象とする新薬（一般名：レカネマブ）による治療体制を整備、投与開始（令和6年1月） ※レカネマブ：令和5年9月薬事承認、12月販売開始

(2) 施設・医療機器の整備

- ① 診療情報一元管理システム（未既読管理システム）（令和5年8月）
- ② AIを活用した胸部X線画像病変検出システム（令和5年8月）

3 今後の取組

- ① 患者確保に係る取組強化（医療専門職の人材確保）
- ② 神経難病リハビリテーションセンターの取組強化
- ③ 「軽度認知障害（MCI）」及び「軽度の認知症」治療に係る地域医療連携体制の他圏域に先駆けた導入

[参 考] 令和5年度 兵庫県病院事業の経営状況について（別紙のとおり）